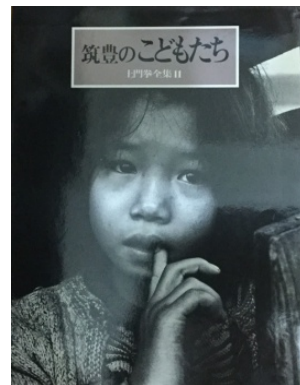


弁当を持ってこない子

写真上は土門拳全集 11「筑豊のこどもたち」。ずいぶん前に買った写真集だ。表紙のカバーは「るみえちゃん」。この子の表情が何とも忘れがたい。写真というものに、こころを惹かれた一枚だ。

「るみえちゃん」にも関心があるが、この写真集で印象に残っているのが、「弁当を持ってこない子」である。

写真下左の説明には。「弁当を持ってこないこどもの顔は、写さないでほしいと校長先生は気を配っている。問題児たちは雨が降ると学校を休む。特に給食の必要が感じられる栄養失調気味のこどもが弁当を持ってこないのだ。弁当を持ってこない子は絵本を見ている。」



その右の写真。「弁当を持っているこどもたちが何かのひょうしでどっと笑っても、弁当を持ってこない子は絶対にそちらを振りむかない。その子どもたちには、何も関係がないかのように振りむ



かないのだった。目のやり場に困るから絵本を見ているのだ。」

馬咲子『給食費未納 子どもの貧困と食生活格差』2016年から—1954(昭和 29)年、福岡県では、給食費の滞納が 7500 人にのぼり、学校給食のない学校でも弁当を持ってこない子どもが増加します(当時の福岡県の炭鉱地域では、給食実施校は 77、未実施校は 40)。子どもの 2 割は欠席がちで、健康状態も悪くなってきました。

現在でも給食のない中学校では、次のような光景が見られることがあります。「ある女子中学生は、お弁当を作ってもらえないし買えない、昼食の時間はトイレに隠れている。別の中学生は、友達から少しずつ分けてもらったり、給食の時間は机に付して寝ているふりをしたりしている。学校の先生もどうしていいか分からないと、ある先生は見かねて子供にお昼御飯の代金を渡している。親御さんが心を病んでいて食事の支度ができない、夕食もスナック菓子という家庭もある、とても弁当を持っていくことはできないだろう。」「満身に食事ができない子ども達がおり、おなかを空かせた子ども達が保健室に集まってくる。休み時間になると保健室に氷を食べに来る。給食のない中学や高校ではお弁当を持ってこなくて、お昼の時間に居場所がなくて保健室にやってくる。朝食を食べずに来る子ども達のために、養護教諭があめ玉、クッキーを準備して、周囲に配慮しながら食べさせている。保健室にはインスタントのみそ汁やお菓子が置いてあって、必要なときにそれを食べさせている。」

子どもの貧困と学校給食についても考えていきたい。

(2016年10月14日)